

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教学人日本バプテスト連盟総務部

《福島の声》 緊急時相互受け入れのお願い

濱野 道雄（東日本大震災被災地支援委員会委員 原発課題班・鳥栖教会）

いつも東日本大震災被災地支援委員会の働きを覚えてお祈り、お支え下さりありがとうございます。

この頃「ウイズコロナ」という言葉をよくみかけますが、変異株も次々と生まれ、その他の感染症も今後また出てくるかもしれないことを覚えて、コロナが終息するというより、「コロナ（や他のウイルス）と共に」生活をしていく、私たちのライフスタイルの方を変える、といった意味合を込めてつかわれる言葉でしょう。

コロナと同じく、震災や原発事故などの災害に関しても同じように、「災間（さいかん）」という言葉があります。10年前に東日本大震災がありました。次にまた災害があるかもしれないことを覚えて、10年前の災害と、来て欲しくはないけれども来るかもしれないこの先の災害の間、災間を今は生きていくと自覚し、ライフスタイルの方を変えることが求められている訳です。

実際、10月7日に東京の方々は大きな地震にあわれたことでしょう。そして東北でも、今年2月に福島と宮城では震度6強の地震がありました。日本全国でも今年すでに震度5以上の地震は7回起きており、その内4回は東北です。その中、東京電力福島第一原子力発電所では来年より燃料デブリ（溶けた核燃料の固まり）を取り出す作業にかかりますが、これは廃炉を進める中で最も難しい行程と言われていきます。決してあってはなりません。何らかの事故が起こる危険性を覚えたライフスタイルを備えておくことは大切に思えます。

その一つとして、10年前にもお願いしたことを再度、お願い致します。万一事故などによる緊急事態が起こり、その地域の教会の方々の避難が必要となった際に、皆様の教会を一時避難所としてお願いすることがあるかもしれませんので、その際に受け入れて下されば大変幸いです。原子力関係の事故の場合、その時の風向きによって避難すべき方向が変わります。風下に逃げてはいけません。そこで予め

避難場所を指定する事は難しいです。ですから文字通り「緊急」に避難先を決めなければなりません。その際、日本バプテスト連盟の主にあるつながりの中で、どこにあって教会を開放しあい、一時避難所としてお願いすることができれば、どれだけ心強い事でしょうか。

これは福島だけの話ではありません。日本中に原発はあります（今、停止していても）。そして原発事故だけの話ではなく、様々な災害時に、もし私たちが神に創られた同じいのちとして、お互いフェアに受け入れ合う事ができるならば、なんと幸いなことでしょうか。勿論、その際にはきれいごとではなく、様々な準備や負担が必要となって来るでしょう。ですから、こうして今、このことに思いを巡らせていただくこと、そしてできましたら少しずつ「新しいライフスタイル」として備えて頂くことをお願いする次第です。平和の主に祈りつつ。

【聖書 ヘブライ人への手紙13:1, 2】

兄弟としていつも愛し合いなさい。
旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。



タンクが並び福島第一原発
2021年4月 朝日新聞社

《現地支援委員会》 現地支援委員会を終了し、新たな歩みへ

金丸 真（現地支援委員会 委員長・仙台長命ヶ丘教会）

2011年3月11日に発生した東日本大震災、福島第一原子力発電所事故によって被災している方々を現地の教会で協力して支援するために、連盟の臨時委員会として2011年6月30日に発足した現地支援委員会を、2022年3月31日で終了することが第2回理事会で決定しました。これまで10年以上にわたる全国の皆様のご支援とお祈りに心から感謝いたします。

なお2022年4月から、その働きは、東北連合の特別委員会（被災支援）が引き継いで担っていくこととなります。つまり、連盟としての委員会は終了しますが、その働きを連合（地域）が継続していくという変換です。東日本大震災から10年の時が過ぎ、被災された方々や地域の様子は様々で、私たちが共に歩ませていただく活動も臨機応変に進められています。そこにきて新型コロナウイルスの感染拡大は、その活動に大きな影響を及ぼし続けています。そのような中であって、地域の教会が主体的に働きを担うことによって、なお一層、様々な状況の変化に対応した支援体制を継続できると考え、今回、全国規模の現地支援委員会を終了し、東北連合がその働きを引き継ぐことにしたのです。そして、その働きについては、これまで通り、全国の皆様にニュースレターなどを通してお伝えしていくことになっています。どうか引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。

現地支援委員会が発足した当時、事態は混乱していました。被災規模がこれまで経験がないほどに甚大で、さらには被災地域が広すぎる

という現実を前に、何をしたらよいか、迷いの中にありました。連盟災害対策本部がすぐに立ち上がり、情報を収集し、初動活動を展開していく中で、東北に立たされている現地の教会がどのような協力体制を作り上げていくのかが大きなテーマでした。そこで、東北連合の役員会のメンバーがそのまま現地支援委員会のメンバーになるという仕方で、その働きが始まったのです。

それ以来、現地支援委員会が支援活動を計画して教会に依頼していく形ではなく、教会が主体的に選び取った支援活動を現地支援委員会が支えるという形を大切にして歩んできました。オープンな形で委員会は行われ、陪席で様々な方が参加していただきました。委員会では初めに「み言葉の分かち合い」の時をもち、委員のみならず陪席の方もお話を担当して下さって、それぞれが出会わされている聖書の言葉を分かち合うことを大切にしてきました。そして、それぞれの教会の活動を報告し合い、どんな喜びがあり、どんな課題があるのか、共に味わい、共に考え、励まし合ってきました。この委員会の交わりとつながりがなければ、私たちは今日までこの活動を続けることはできなかったと思います。これまでの現地支援委員会の歩みと、この歩みを支え続けてくださった全国の皆様に、心から感謝し、そしてこれからも主の導きに期待しつつ、次のステージへ進んでいきたいと思っております。



2021年4月1日から10月14日まで 震災募金は、**556千円**（目標400万円）をお献げいただきました。ころころから感謝申し上げます。

募金者 21名・件（受付順、敬称略） 恵、筑紫野二日市、恵泉、伊都、京都、金沢、諫早、調布、金沢、調布、丸亀城東町、調布、調布、浦和、ふじみ野、調布、久保祐子、久留米荒木、那覇新都心、八王子めじろ台、盛岡